

群桐グループ
環境活動報告書
2013



株式会社 群桐産業



群桐エコロ 株式会社

目次

Contents

コーポレートデータ

環境方針	2
会社紹介 (株)群桐産業	3
群桐エコロ (株)	4
環境組織図	5
財務データ	6

社会報告

労働環境の向上	7
地域社会への貢献	8
施設・設備紹介	9

環境と安全

環境目標と実績	11
大気環境測定結果	13
環境への配慮	14
環境への主な取り組み	15
安全対策	16

その他

今後の展開	17
おわりに	18

群桐グループはISO14001の
認証を取得しています。



発行時期

2014年8月(次回発行、2015年夏予定)

対象期間

本報告書に掲載した数値・データは、2013年度
(2013年6月1日～2014年5月31日)の実績を
集計したものです。

対象範囲

(株)群桐産業および群桐エコロ(株)

公表数値

公表数値につきましては、端数処理により
合計が一致しない部分がございます。

本報告書に関するお問い合わせ先

(株)群桐産業 総務部広報室
TEL.0277-78-2479

本レポートは、当社ホームページでもご覧いた
だけます。
<http://www.grr.co.jp>

環境方針

Environmental policy



株式会社 群桐産業
群桐エコロ 株式会社
環境総括責任者

群桐グループ会長
山口 茂

基本理念

当社は、全ての事業活動において、私たちが出来る事は、人類が生きていくための環境を守り整えることであることを深く認識し、地域・顧客・パートナーとの信頼関係を深め、環境と経済の共存を図りながら地球にやさしい環境を考える企業として産業の発展に寄与します。

基本方針

当社は、産業廃棄物(特別管理含む)の収集運搬及び中間処理、廃油の再生処理を主な業務としていることを踏まえ、以下の方針に基づき環境管理を行います。

事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を的確に把握し、同時にこれらが係わる環境関連の法律、規制、協定の要求事項を明確にし、全社及び各部門毎に環境目的・目標・管理計画を定め、全員で取り組み、環境保全活動の継続的な改善及び質の向上に努めます。

事業活動、製品およびサービスに係わる環境関連の法律、規制、協定を遵守し、さらに地域活動との協調により一層のリスクマネジメントに取り組みます。

また、お客様や関係業者地域社会や国との良好なコミュニケーションのため、積極的な情報開示に取り組みます。

環境保全と汚染防止の重要性を認識し、事業活動、製品及びサービスに係わる環境影響のうち以下の項目を環境管理の重点テーマとして、環境汚染の防止に取り組みます。

循環型社会に適合した廃棄物の回収及び再生処理により

(1)資源保護・再使用・再利用に配慮した製品を提供します。(省資源)

環境型社会を目指す事業活動として

(2)エネルギーの効率的利用をします。(省エネ)

(3)廃棄物の削減と適正処理とともに100%リサイクルの達成を目指します。

(4)環境影響の大きい廃棄物の焼却について、二次的な環境汚染を防ぎ、設備の適正管理を行います。

定期的に内部環境監査を実施し、環境マネジメントシステムの見直しと自主管理の維持・向上に努めます。

環境教育、社内広報活動などを実施し全社員の環境方針の理解を図るとともに、協力企業構成員にも伝達し、環境に関する意識向上を図ります。

この環境方針は一般に公表します。

会社概要

Company profile

株式会社 群桐産業



群桐グループ

本社・営業部門

株式会社 群桐産業

所在地 〒379-2301
群馬県太田市藪塚町3201

事業内容 産業廃棄物収集運搬及び処分

事業規模等 設 立:1984年11月28日
資本金:6,000万円
売上高:25億4,000万円(2013年度)
社員数:73名

施設概要 面 積:6,000㎡
主要設備:焼却施設、油水分離施設、ボイラー
駐 車 場:5,180㎡(大型車両約60台駐車可)



株式会社 群桐産業
代表取締役
濱屋 博

環境統括責任者・環境管理責任者及び担当者(グループ共通)

環境統括責任者:群桐グループ	会長 山口 茂
環境管理責任者:群桐エコロ 株式会社	代表取締役 山口 博
環境部(ISO事務局):株式会社 群桐産業	猪狩 雅也
群桐エコロ 株式会社	長竹 宏一

連絡先:TEL/0277-78-2479 FAX/0277-78-5084

E-mail:info@grr.co.jp



群桐グループ
施設管理部門
群桐エコロ 株式会社

所在地 〒370-0351
群馬県太田市新田大町600番26

事業内容 廃棄物の焼却溶融処理及び人工砂販売事業
廃油の油水分離処理及び再生重油販売事業

事業規模等 設 立: 2007年5月1日
資本金: 2,000万円
売上高: 21億2,400万円 (2013年度)
社員数: 60名

施設概要 面 積: 23,438.83㎡
主要設備: 焼却溶融施設、油水分離施設、
各種廃棄物受入保管施設、スラグ加工設備、
低濃度PCB廃棄物処理施設 他



群桐エコロ 株式会社
代表取締役
山口 博

コミュニケーションツール
ウェブサイト



(株)群桐産業
<http://www.grr.co.jp>



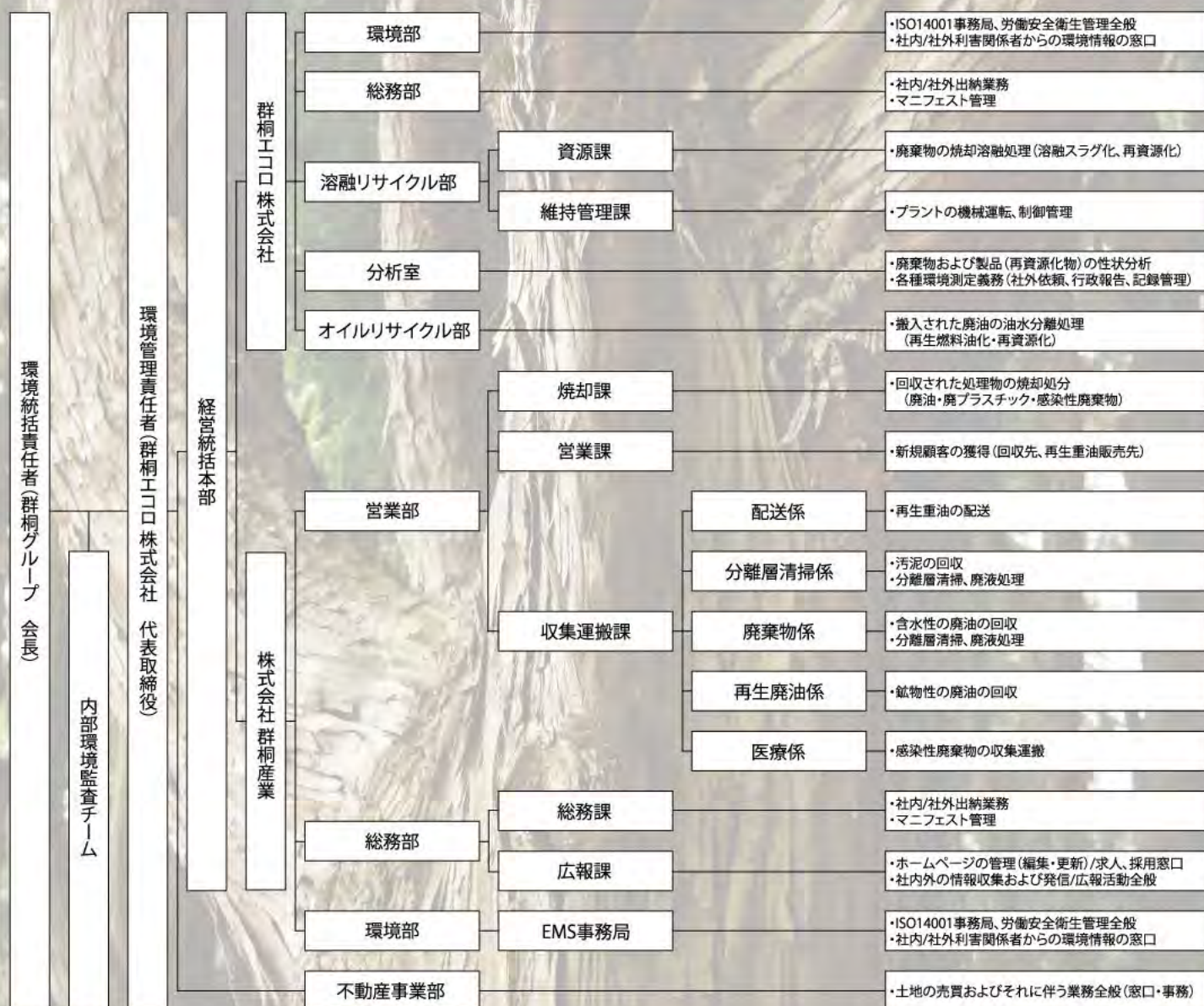
群桐エコロ(株)
<http://www.grr.co.jp/ecologista/>

印刷媒体

- 会社案内
- 環境活動報告書
- ニュースペーパー

環境組織図

Organization chart



当社の環境組織図は上図のようになっています。

群桐グループの会長を環境総括責任者とし、群桐エコロ(株)の社長を管理責任者としています。また、各課の責任者は内部監査官としてEMS(環境マネジメントシステム)事務局と共にチームを編成し、年1回の内部監査を実施しています。

EMS事務局は、環境部が主幹しており、環境管理責任者と共に環境活動における重要な役割を果たしています。

環境管理責任者は、主に法律関係や環境目的・目標・プログラム等に関わる業務の管理並びにその他業務の管理及び承認を行います。

環境総括責任者は、各種重要項目の承認並びに環境管理計画の見直しによる是正・改善を、環境活動が継続的かつ効果的に運用されるよう環境管理責任者に指示します。

損益計算書

株式会社 群桐産業

平成25年6月1日～平成26年5月31日 (単位:千円)

売上高	2,540,271
売上原価	1,970,599
売上総利益	569,671
販売及び一般管理費	356,346
営業利益	213,324
営業外収益	25,144
営業外費用	16,926
経常利益	221,543
税引前当期純利益	244,032
法人税等充当額	79,417
当期純利益	164,615

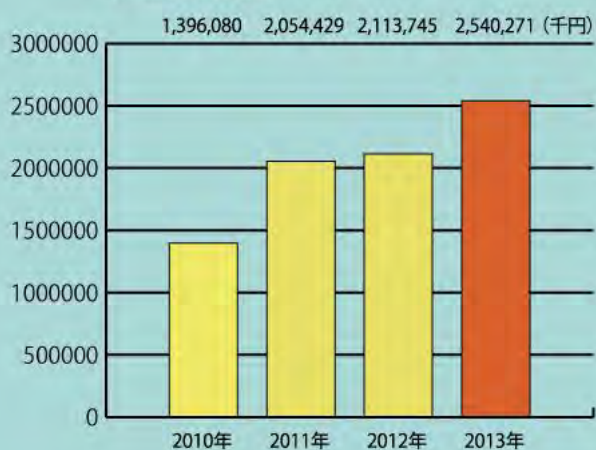
群桐エコロ 株式会社

平成25年4月1日～平成26年3月31日 (単位:千円)

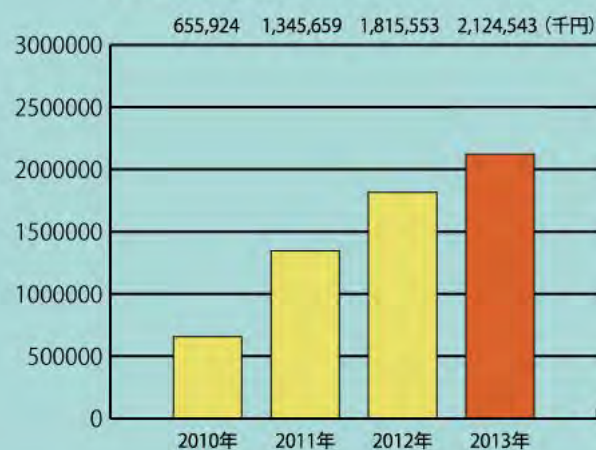
売上高	2,124,543
売上原価	773,625
売上総利益	1,350,917
販売及び一般管理費	1,075,091
営業利益	275,826
営業外収益	8,813
営業外費用	45,438
経常利益	239,200
税引前当期純利益	228,795
法人税等充当額	62,114
当期純利益	166,681

売上高の推移

株式会社 群桐産業



群桐エコロ 株式会社



2013年度は(株)群桐産業・群桐エコロ(株)共に売上高が前年度を大幅に上回りました。
より詳しい財務諸表は弊社ホームページより産廃情報ネットにお入りいただき、ご参照いただければ幸いです。

労働環境の向上

Improvement of working environment

働きやすい職場づくり

群桐グループでは、全ての従業員にとって働きやすい職場環境を整えることを目指しています。事務所の禁煙化をはじめ、育児休業や子供の看護休暇等、特に女性の就業に配慮しています。また、各種手当が充実していて、扶養の親まで該当する家族手当や子供への教育手当等があります。



就業規則には「セクシャルハラスメントの禁止」項目があり、女性スタッフも安心して職務に励んでいます。

公平・公正な雇用

群桐グループでは従業員の採用にあたり、性別や年齢要素などを排除した選考を実施しており、その上で適材適所への人材配置を心掛けています。また、昨年度から力を入れている新卒者の採用は今年度も成果が実り、4月には4名の新卒者が新入社員として入社いたしました。



7月・8月と2回実施された新卒者向けの会社説明会。採用はグループでまとめて行い、採用後に配属先が決まります。

社内コミュニケーションの充実

群桐グループでは年に1回、(株)群桐産業と群桐エコロ(株)の全社員で社員旅行に行っています。今年度の社員旅行では、社員以外に既に内定が出た新卒者も参加いたしました。宴会の席では永年勤続の表彰式が行われ、今回は7名の社員が該当し、表彰されました。



2013年度の社員旅行は新潟の村上温泉でした。両会社の社員が一同に会し、親睦を深めました。

社員の健康管理

群桐グループでは年1回(プラント作業従事者は年2回)、社員を対象とした健康診断が実施されます。また、社員が健康で快適な作業環境のもとで仕事が行えるよう、産業医も選任しています。これにより社員の健康障害の予防と共に、心身の健康の保持増進が期待されます。



産業医による現場視察の様子。常に作業現場の環境改善に努めています。

地域社会への貢献

Contribution to society

公用車寄贈

群桐グループは今年、社会貢献の一環として太田市に公用車（スバル・フォレスタ）を寄贈いたしました。それに伴い8月6日に太田市役所本庁舎東玄関前にて寄贈車輛受納式が行われ、太田市市長 清水聖義様より感謝状をいただきました。

群桐グループは今後も尚一層、太田市の発展に尽力する所存でございます。



工場見学 対応(抜粋)



2013年8月22日、廃棄物処理施設整備調査委員会（太田市議会）の皆様が群馬ハイブリッドクリーンセンターを視察に訪れ、廃棄物がリサイクル処理され資源として生まれ変わる工程を見学されていきました。この視察が太田市の廃棄物リサイクルの取組みの一助となれば幸いです。



太田市の児童がサイエンス（科学）への関心を高め、明日の太田を支える人材の育成を図ることを目的として開講されている太田市サイエンスアカデミー。昨年に引き続き、今年は2班に分かれて約60名の児童（5年生と6年生）が群馬ハイブリッドクリーンセンターに見学にやってきました。

TOPIX

2013年6月17日、太田市社会教育総合センターにて、太田市功労者及び徳行者表彰式が行われました。(株)群桐産業と(株)エコロジスタ（現：群桐エコロ）は2012年12月に消防用広報車を寄贈したことにより徳行者として表彰されました。



施設・設備紹介

Factory facility

雨水排水貯留設備



構内に降った雨水は、各所の排水溝により360m³の容量を誇る地下貯水ピットに集約されます。

その後砂ろ過機を経由し、ロータリーキルンの冷却水や減温塔の排ガス冷却水に使用されます。

人工砂加工設備



人工砂の原材料となる溶融スラグは、こちらの設備で加工・処理されます。

磁選機で2回にわたって鉄成分を回収され、その後破砕機にかけられて砂状のスラグになります。

こうして生成されるのが群馬ハイブリッドクリーンセンター製の人工砂『サーブルオール』です。

地球に優しく、共に生きてゆく企業であり続けるために…

群桐エコロ 株式会社が管理運営する施設「群馬ハイブリッドクリーンセンター」では、廃油のリサイクル及び焼却溶融処理した廃棄物から人工砂の製造を主に行っています。

環境に負荷がかからない適正な処理には、充実した設備環境が不可欠です。ここでは構内の施設及び設備の一部をご紹介します。

ロータリーキルン(焼却溶融炉)



焼却溶融炉ロータリーキルンは、廃棄物を1,300℃の高温で処理することで無害化し、「溶融スラグ」を回収します。

燃烧時に発生する熱エネルギーは、排熱ボイラーで蒸気を発生させて、発電などに利用されます。

廃油リサイクル施設



廃油リサイクル施設ではお客様より回収した廃油を遠心分離器にかけ、精製します。再生重油はプラント燃料として使用されるとともに、お客様へ販売も行っています。

低濃度PCB廃棄物無害化処理施設



2013年12月26日付で、低濃度ポリ塩化ビニフェル(PCB)廃棄物を高度な技術を用いて無害化処理することについて環境大臣の認定を受けました。

タンクローリーでの受入や、抜油棟でPCB油をドラム缶から抜き取り専用のタンクに保管し、その後ロータリーキルンで焼却溶融・無害化処理いたします。

分析棟(分析室)



お客様からお預かりした廃棄物のサンプルを環境計量士が性状分析し、処理可能が見極める施設です。

また、各種環境測定業務(社外依頼・行政報告・記録管理)を行うとともに、製品である人工砂の含有試験や溶出試験も行い、出荷前に安全をチェックいたします。

環境目標とその実績

Environmental goal and track record

●再生重油販売量

「循環型社会に適合し、資源保護に配慮した製品の提供」として、廃油の燃料化を推進しています。これにより、新たな化石燃料の消費を削減できるとして省資源に貢献しています。

13年度の目標に対しては、△1,386KLとなり、残念ながら達成できませんでした。再生重油の自家消費量は減少し安定しましたが、原料となる廃油の調達が思うようにできなかった

ことが大きく影響しました。要因はいくつかありますが、1つは10,000件を超えるお客様のフォローが不十分であったことが挙げられます。そこで、11月に独自の顧客管理システムを導入しました。これによりお客様の確実なフォローが可能となり、また営業活動の更なる強化もあって、現在では廃油の回収量が増加しています。今後は新たな目標に向かって、これまでのサービスをさらに向上させることで、目標の達成を目指します。



●CO2排出量削減

「地球温暖化(気候変動)防止活動」として売上高CO₂原単位排出量の削減に努めています。

13年度は全ての施設が安定稼働し売上高も予想を上回り、目標を大幅に達成しました。ただし、目標値の五分の一という結果は、不確定要素があったことを踏まえても精度に問題があったと思われます。

13年度実績は14年度の目標値を高い精度で設定するうえで

の基準となりますが、エネルギー消費量の削減に向けた取り組みについては限定的になってきています。したがって14年度の目標は、「微減」に留めていますが、事業活動全般の質を向上させるとともに売上高UPを図るための取り組みを検討するなど、省エネと革新を実践して目標達成に向けて努力していきたいと考えます。



●廃棄物焼却量

循環型社会を目指す事業活動として、廃棄物の焼却処理後の燃え殻を溶融処理または廃棄物を直接溶融処理することで埋立処分をせずに建設資材として利用できるようにしています。したがって、当グループでの廃棄物の焼却処理量の増加は、循環型社会の構築に寄与します。

13年度は目標に対して、プラス13,776tという大幅な達成を果たしました。焼却施設及び焼却溶融施設が順調に安定稼働し、営業活動も実を結び廃棄物の受入量が増加したことによりです。そして何よりもお客様に「安心・安全」をお届けできたものと嬉しく思っております。14年度の目標は設備能力の制限から「微増」ではありますが、今後も安定稼働を継続して更なる安心・安全をお客様に提供するとともに、サービスの向上を図っていきたいと考えます。



●水の使用量削減

エネルギーの効率的利用(省エネ)として、売上高原単位で水(上水のみ対象)の使用量の削減に努めています。

13年度は目標値に対して20%以上削減することができました。これは施設の稼働によって増加する水の使用量に対して効率よく売上高がUPしたことによりです。目標値の精度に問題があったかもしれませんが、良い結果が得られたことは前向きに捉えています。

そこで14年度の目標値ですが、CO₂と同様に使用量の削減に向けた取り組みについては限定的になってきている為「微減」としてはありますが、事業活動全般の質を向上させるとともに売上高UPを図るための取り組みを検討するなど、省エネと革新を実践して目標達成に向けて努力していきたいと考えます。



大気環境測定結果

Measurement of air environment

群桐グループでは、周辺環境への影響を常に把握するため、ダイオキシン類やばい煙等の測定を行い、その結果をホームページで常時公開しています。

◆大気環境測定結果(直近値)

測定:平成理研 株式会社

1. ダイオキシン類

対象施設:株式会社 群桐産業 焼却施設

資料採取日:2013.9.30 証明書発行日:2013.10.31

項目	測定結果	基準値	自主基準
排ガス	0.086 ng-TEQ/m ³ N	5 ng-TEQ/m ³ N	4.0 ng-TEQ/m ³ N
焼却灰	0.016 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g
飛灰(ばいじん)	0.68 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g

対象施設:群桐エコロ 株式会社 焼却溶融施設

資料採取日:2014.6.19 証明書発行日:2014.7.11

項目	測定結果	基準値	自主基準
排ガス	0.0093 ng-TEQ/m ³ N	0.1 ng-TEQ/m ³ N	0.1 ng-TEQ/m ³ N
焼却灰	0.000002 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-TEQ/g
飛灰(ばいじん)	0.24 ng-TEQ/g	3 ng-TEQ/g	2.4 ng-REQ/g

2. ばい煙(ばいじん、硫黄酸化物、窒素酸化物、塩化水素)

対象施設:株式会社 群桐産業 焼却施設

項目	測定結果		基準値	自主基準
	資料採取日:2013.8.10 計量証明発行日:2013.9.24	資料採取日:2014.4.1 計量証明発行日:2014.4.14		
ばいじん濃度	0.005 g/m ³	0.001 g/m ³ 未満	0.15 g/m ³	0.12 g/m ³
硫黄酸化物量(K値)	0.070 m ³ /h未満	0.085 m ³ /h未満	8.0 m ³ /h	6.4 m ³ /h
窒素酸化物換算濃度	76 ppm	63 ppm	250 ppm	200 ppm
塩化水素換算濃度	120 mg/m ³	64 mg/m ³ 未満	700 mg/m ³	560 mg/m ³

対象施設:群桐エコロ 株式会社 焼却溶融施設

項目	測定結果		基準値	自主基準
	資料採取日:2014.4.17 計量証明発行日:2014.5.1	資料採取日:2014.6.19 計量証明発行日:2014.7.1		
ばいじん濃度	0.001 g/m ³ 未満	0.001 g/m ³ 未満	0.04 g/m ³	0.02 g/m ³
硫黄酸化物量(K値)	0.21 m ³ /h未満	0.27 m ³ /h	17.5 m ³ /h	6.0 m ³ /h
窒素酸化物換算濃度	88 ppm	100 ppm	250 ppm	150 ppm
塩化水素換算濃度	43 mg/m ³ 未満	58 mg/m ³	700 mg/m ³	150 mg/m ³

環境への配慮

Environmental efforts

(株)群桐産業(エコドライブ)

(株)群桐産業では、約60台もの大型車両を保有しており、お客様の元に廃棄物を回収に行く際に使用されます。その際に、より効率的に業務が遂行できるよう徹底した運行管理により無駄のないルート回収をしています。

特に廃油の回収車両においてはGPSも搭載しており、リアルタイムでの監視が行われています。

これらの余分な排気ガス排出の抑制の他、搭乗ドライバーには安全運転および環境に配慮したエコドライブを推奨しています。



群桐エコロ(株)(水・熱エネルギー再利用)



群馬ハイブリッドクリーンセンターでは焼却施設の温度管理や燃焼ガスの冷却等に、雨水や使用済みの工業廃水を使用しています。当社では、こうした工程で使用した排水の水質管理や工場内における水の循環利用をはじめとする効率的な利用に取り組み、水使用量の削減に努めます。



群馬ハイブリッドクリーンセンターのロータリーキルン(焼却溶融炉)では、廃棄物を処理する際の熱エネルギーを回収・廃熱ボイラで蒸気を発生させて、発電に利用しています(サーマルリサイクル)。この発電量は1時間あたり約1,000kwとなり、CO₂排出量が年間5,139t削減されます。

TOPIX

2013年7月24日～26日の3日間、群桐グループではISO14001認証審査機関(SGSジャパン株式会社)による維持審査が実施されました。期間中は審査員による書類審査や社員インタビュー、作業立会審査等が行われ、後日無事に審査登録証が届きました。



環境への主な取り組み

Environmental initiatives

エコキャップからポリオワクチン

群桐グループでは、毎年ペットボトルのキャップを「エコキャップ推進協会」へ送っています。これをエコキャップ推進委員会が再資源化業者へ売却し、その収益がワクチン購入資金として「JCV（世界の子供にワクチンを日本委員会）」に寄付されます。



大量のエコキャップ。約800個でワクチン1人分が購入できます。

緑のカーテン

昨年度から始めた「緑のカーテン」は今年の夏も省エネに活躍してくれました。(株)群桐産業はゴーヤを、群桐エコロ(株)はその他にミニトマトやキュウリ等色々な野菜を育てて頃合いを見計らって収穫し、社員で持ち帰ったりしました。



次の年には育てる野菜の種類を増やしてよりバラエティに富んだカーテンを作る予定です。

ソーラーパネルの導入

太陽光発電の推進を掲げる太田市に倣い、群桐エコロ(株)では事務所と倉庫の屋根にソーラーパネルを設置しました。太田市では年間を通して日照時間が多く、太陽の恵みを豊富に享受できます。



群桐エコロ(株)に設置されたソーラーパネル。群桐グループは、今後も太陽光発電の増設を計画しています。

会社周辺美化活動実施

(株)群桐産業は年1回、群桐エコロ(株)では年2回の割合で、「会社周辺美化活動」と称するごみ拾いを実施しています。早朝から実施されるこの活動は、地域の環境美化とともに社員の環境意識の向上に繋がっています。



初夏の汗ばむ陽気の中でのごみ拾い。この日は例年と比較してあまりごみが落ちておらず、道がきれいでした。

安全対策

Measure for safety

避難誘導及び消火訓練

群桐グループ各社では年1回、有事に備え避難誘導及び消火訓練を実施しています。弊社プラントでは廃油を中心とした様々な危険物を取扱っているため、私達は毎年消防訓練を実施し、いつ災害が起きても適切な行動ができるよう繰り返し訓練を行っています。



(株)群桐産業での消火訓練の様子。この日はプラントの消火栓を用いた放水訓練も同時に行いました。

消防車両配備

2014年3月、構内の火災事故対策として群馬ハイブリッドクリーンセンターに消防車両が配備されました。この消防ポンプ車は太田市消防本部様より払い下げを受けたもので、グループ全体の防災意識向上と万が一の対策として、更なる安全向上に繋がることが期待されます。



配備の際には消防本部からお越しの職員より操作方法をレクチャーしていただきました。

安全教育・教育訓練

従業員のヒューマンエラー防止の観点から群桐グループでは、毎月1回安全教育及び教育訓練を行っています。また、5月31日の「群桐グループ防災の日」では昨年同様、太田市消防本部様による群桐グループ合同の安全教育講習会が行われました。



教育内容はDVD視聴が中心。原則全員参加ですが、やむを得ない場合は別日に個別で視聴しています。

AED(自動体外式除細動器)設置

群桐グループは社内で突然の心停止が発生したときに備え、少しでも救命の確率が高くなるようにと(株)群桐産業・群桐エコロ(株)各社の事務所にAEDを設置いたしました。設置後は全社員が使い方の指導を受け、咄嗟に使えるようにしています。



小児(未就学児)対応型の為、出力されるショックエネルギーを低減する機能を備えています。

今後の展開

Future development

サーブルオールの販路拡大

群馬ハイブリッドクリーンセンターで製造されるサーブルオール(人工砂)。現在は主にコンクリート骨材やアスファルトの路盤材等に使用されていますが、今後は埋設工事やソーラーパネル設置時の雑草の発生抑制等、更に用途を広げていきます。

天然の山砂や川砂と比べて安価な上、同じ用途で使用できるので、可能性は無限に広がります。



※山砂と混合使用。

新施設の建設

群馬ハイブリッドクリーンセンターでは低濃度PCB廃棄物処理においては、現在低濃度PCB廃棄物のうち金属以外を処理しております。そこで、工場に隣接している土地を購入し、近い将来にPCB汚染物の筐体(コンデンサ・トランス等)を処理できる施設を建設する計画をしています。

この施設が立ち上がれば国が推進しているPCB廃棄物処理の促進に寄与し、地域社会に貢献するとともに関東近辺では他社との大きな差別化を図ることができ、大きな強みとなります。





おわりに

Conclusion

編集方針・後記

本レポートは、群桐グループに関係する全てのステークホルダーの皆様へ、当グループ全体の環境保全に向けた活動、ならびに社会に配慮した活動について深く理解していただき、より一層の信頼をいただくことを目的に編集いたしました。

報告にあたっては、ステークホルダーの皆様にお伝えしたい事項を重点的に取り上げることで、当グループの活動を理解しやすい紙面づくりに努めました。

本レポートは「経営」「社会」「環境」の3つの側面に特化して形成されています。群桐グループのその他の活動・取り組みにつきましては、弊社ホームページをご参考いただければ幸いです。

群桐グループは、産業廃棄物処理業者としてこれからも社会に貢献し続けていくことを目指します。また、更に新しい処理施設を計画中で、より環境に優しい処理方法を追求していく所存でございます。

株式会社 群桐産業 総務部広報室 家富 和之

環境管理責任者より

2013年度は、各施設が順調に稼働し、また全ての業務において順調な進捗を見ることができました。2011年に大規模な新規施設を立ち上げて以来、大きな動きの中でも細部をおろそかにすることなく、会社業務すなわち「環境活動」を推進し、着実に成長しながら群桐グループの企業価値を高めることができたと思います。そして、お客様をはじめ関係各位に「安心」をご提供することができたのではないかと考えております。

これまで約9年余の運用をしてきました当グループにおける環境マネジメントシステムは、変化の時期を迎えようとしています。ISO14001の2015年改訂も控える中、新たな目標や取り組みを掘り起こすことで、当グループならではの新しい価値を見出して、明らかにすることにチャレンジしたいと思います。

そして今後もハードとソフト両面での充実を図り、企業として社会的責任を果たすとともに、循環型社会の形成推進に貢献し、お客様へのサービス向上に努めて参ります。

環境管理責任者 山口 博

株式会社 群桐産業

〒379-2301 群馬県太田市藪塚町3201

TEL:0277-78-2479 FAX:0277-78-5084

URL <http://www.grr.co.jp>

群桐エコロ株式会社

〒370-0351 群馬県太田市新田大町600番26

TEL:0276-55-0500 FAX:0276-55-0501

URL <http://www.grr.co.jp/ecologista/>